

古文ドリル：敬意の方向 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：敬意の方向とは

古文の敬語問題で **最頻出**なのが「敬意の方向」。

「誰から誰への敬意か」を問う問題。

敬語の種類	敬意の方向
尊敬語	動作主 を敬う
謙譲語	動作の受け手 を敬う
丁寧語	聞き手・読み手 を敬う

「誰から」の判別

地の文（地の文章）

- 敬意の発信者 = **作者**

会話文

- 敬意の発信者 = **話し手**（その会話をしている人物）

心内文（心の中の独白）

- 敬意の発信者 = **心内で思っている人物**

手紙文

- 敬意の発信者 = **手紙の書き手**

「誰へ」の判別

尊敬語

- 動作主**（その動作をしている人）への敬意

謙讓語

- **動作の受け手**（その動作を受ける人・到着点）への敬意

丁寧語

- **聞き手**（会話の相手） or **読み手**（地の文の場合）

識別の鉄則

1. **地の文 or 会話文 or 心内文** をまず確認
2. 敬語の **種類**（尊敬／謙讓／丁寧）を判定
3. 「誰から」「誰へ」を **動作の構造** で特定

二重敬語

二重敬語（せたまふ・させたまふ・しめたまふ）は **最高敬意**。天皇・皇族・摂関級など、最上位の人物への敬意を示す。方向の構造は通常の尊敬と同じ（地の文＝作者→動作主）。

敬意の方向の典型パターン

場面	発信者	敬語種類	受け手
地の文・尊敬	作者	尊敬	動作主
地の文・謙讓	作者	謙讓	動作の受け手
会話文・尊敬	話し手	尊敬	動作主
会話文・謙讓	話し手	謙讓	動作の受け手
会話文・丁寧	話し手	丁寧	聞き手
地の文・丁寧（日記等）	作者	丁寧	読み手

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。
こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「から」は 会話文か地の文か で2択即決

カッコ「 」の中なら **話し手**、カッコの外なら **作者**。これだけで「誰から」は8割解ける。 - 地の文 → 作者から - 会話文「 」 → 話し手から - 心内文（～と思ふ） → 思っている人から - 手紙文 → 書き手から

コツ② 「へ」は 敬語の種類で公式化

- **尊敬** → 動作主へ
- **謙譲** → 動作の受け手へ
- **丁寧** → 聞き手（会話文）／読み手（地の文）へ

種類さえ決まれば「誰へ」は公式に当てはめるだけ。

コツ③ 「給ふ」の活用で「誰へ」の対象が変わる

- 四段「給ふ」（尊敬） → 動作主へ
- 下二段「給ふ」（謙譲） → 動作の受け手（多くは聞き手）へ

例：会話文中の「思ひ給へ」（下二段） → 話し手から **聞き手** への敬意（謙譲）

コツ④ 二重敬語の方向は通常の尊敬と同じ

「せたまふ／させたまふ／しめたまふ」を見ても、**方向の構造は普通の尊敬と同じ**。地の文なら「作者→動作主」、会話文なら「話し手→動作主」。最高敬意のニュアンスは方向問題では問われない。

試験本番でのチェック順序

1. その敬語が **地の文／会話文／心内文／手紙文** のどこにあるかを確認 → 「誰から」決定
2. 敬語の **種類**（尊敬／謙譲／丁寧）を判定
3. 種類に応じた公式（尊敬＝動作主、謙譲＝受け手、丁寧＝聞き手／読み手）で「誰へ」決定
4. 「給ふ」は **活用** をチェックして種類を間違えない

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 会話文中の敬語を「作者から」と答える → 会話文は **話し手から**
- 謙譲を尊敬と取り違えて方向を間違える → 種類の判別が先
- 丁寧語の対象を動作主と答える → 丁寧は **聞き手・読み手** へ
- 心内文の敬語を作者からと誤答 → 心内の主体（その登場人物）から

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

地の文・会話文の基本パターン。

Q1. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御文書か**せたまふ**。

Q2. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大臣、御文を**奉る**。

Q3. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「これは尊く**侍り**」

Q4. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御覧**ず**。

Q5. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「我れ、御文を**奉り侍り**」

Q6. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 法皇、御幸おはす。

Q7. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「君に仕うまつり侍り」

Q8. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 上、御文書かせたまふ。

Q9. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「いま参り候ふ」

Q10. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御簾を上げさせたまふ。

Q11. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大納言、御前に候ふ。

Q12. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「我れも参らんと申し侍り」

Q13. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 君、いと美しき御姿におはす。

Q14. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「いと尊く思しめし侍り」

Q15. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 僧、御物を賜はる。

Q16. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御琴弾かせたまふ。

Q17. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「これ、私が見奉り侍り」

Q18. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 法皇、御使ひを遣はす。

Q19. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「君が仰せらるるやう」

Q20. 敬意の方向を答えよ。

(会話文中の丁寧)「いま参り候ふ」

基礎編 / 20

【第2部】標準編 (Q21~Q50)

複合敬語・物語の典型・心内文。

Q21. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中将、御琴を弾きたまふ。

Q22. 敬意の方向を答えよ。

(会話文)「我れも、さ思ひたまふる」

Q23. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大臣、御文を奉りたまふ。

Q24. 敬意の方向を答えよ。

(地の文)「これなむ都鳥」と申しける。

Q25. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御酒を参る。

Q26. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 我れ、御所に参る。

Q27. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「『これは尊く候へ』と申し侍り」

Q28. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御文を御覽ぜさせたまふ。

Q29. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 「ただ今、参り候はむ」と申しけり。

Q30. 敬意の方向を答えよ。

(心内文) 「我れ、いかでこの御方に仕うまつらん」

Q31. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大納言、いかにと思しめしめぐらす。

Q32. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「『君に奉らん』と仰せらる」

Q33. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 若君、御湯召したまふ。

Q34. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 御使ひ、御文を取り奉りて、まかり出づ。

Q35. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 「御覧じたれ」とて、御ふみを奉る。

Q36. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御物思はしげにおはしましけり。

Q37. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「いままかり侍らむ」

Q38. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御髪を梳らせたまふ。

Q39. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「『御覧ぜよ』と仰せらる」

Q40. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大臣、御位を賜はせたまふ。

Q41. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 君、御心地いと苦しく思しめすを、慰め奉る。

Q42. 敬意の方向を答えよ。

(手紙文) 「君のおほせのこと、承りて侍り」

Q43. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「さやうに仕うまつるべきやうにても侍らず」

Q44. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御湯を召して、入らせたまふ。

Q45. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 院、御衣を奉りて、出でたまふ。

Q46. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「我れ、君の御心を承り侍れば」

Q47. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 御使ひ、まかりまうでて、御文を奉る。

Q48. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「『これは尊し』と申し侍り」

Q49. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、ものもおほせられず。

Q50. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 「まかり出で侍りなむ」と申しけり。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

入れ子の会話・複数の敬語連動・特殊敬語。

Q51. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大臣、御使ひに申したまふ。

Q52. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 「君よ、いま参らせたまへ」と申し侍り。

Q53. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 「いとかしこく思ひたまふる」と申しけり。

Q54. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 御文、御前に奉り給ふを、御覽ぜさせたまふ。

Q55. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「『御覽ぜよ』と仰せらるれば、承り侍りぬ」

Q56. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御物の怪に悩みたまふを、皇后いと心苦しと思しめす。

Q57. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 御乳母、若君を抱き奉りて、まかり出づ。

Q58. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御簾のうちにて、ものを仰せらる。

Q59. 敬意の方向を答えよ。

(手紙文) 「承り侍りて、いとかたじけなく思ひたまふる」

Q60. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 院、御文を遣はす。

Q61. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大納言、御前にさぶらひて、御物語申し上ぐる。

Q62. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「いとかしこき御方なれば、畏まり侍る」

Q63. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御文を御覧じて、いみじく愛でたまふ。

Q64. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「まうで来つ。仕うまつるべきこと侍らば」

Q65. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 上、御物の怪にて、苦しませたまふを、皇后夜昼御祈祷せさせたまふ。

Q66. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「御覧ぜさせ奉らばや」

Q67. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、かしこく御心を動かしたまふ。

Q68. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「『御物を賜はり侍りぬ』と申す」

Q69. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御簾のうちにて、ものを仰せらるを、え聞こえず。

Q70. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「さやうに仕うまつるべきやうにても侍らず」

Q71. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御湯を召して、入らせたまふ。

Q72. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 院、御衣を奉りて、御所より出でさせたまふ。

Q73. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「まかり侍りて、承りたることを申し侍らむ」

Q74. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 入道殿、このことをいとねたく思しめしけり。

Q75. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大納言、御位を奉らせたまふ。

Q76. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「『君に奉らん』と思ひたまふる」

Q77. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 御使ひ、まかり帰りぬ。

Q78. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「君は、いま御寝にて侍る」

Q79. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御琴を召して、御前にてあそばす。

Q80. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「いと心嬉しく承りたまふる」

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

源氏物語・枕草子など難関大頻出。

Q81. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺)

(地の文) いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に…

Q82. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺)

(地の文) すぐれて時めきたまふありけり。

Q83. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺)

(地の文) はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方々…おとしめそねみたまふ。

Q84. 敬意の方向を答えよ。(枕草子・香炉峰の雪)

(会話文) 「少納言よ、香炉峰の雪、いかならむ」と仰せらるれば…

Q85. 敬意の方向を答えよ。(枕草子・香炉峰の雪)

(地の文) 御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせたまふ。

Q86. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・若紫)

(会話文) 「雀の子を犬君が逃がしつる。伏籠の内に込めたりつるものを」

Q87. 敬意の方向を答えよ。(伊勢物語・東下り)

(地の文) 「これなむ都鳥」と言ふを聞きて、…と詠めりければ、舟こぞりて泣きにけり。

Q88. 敬意の方向を答えよ。(大鏡)

(地の文) 御年五十六にて隠れさせたまひにしかば、御諡を村上の御門と申す。

Q89. 敬意の方向を答えよ。(大鏡)

(地の文) 入道殿、このことをいとねたく思しめしけり。

Q90. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺)

(地の文) 上達部、上人なども、あいなく目をそばめつつ、「いとまばゆき人の御おぼえなり」と…

Q91. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺)

(地の文) 人のそしりをもえ憚らせたまはず…

Q92. 敬意の方向を答えよ。(枕草子・第百四十六段)

(会話文) 「御覧じたれ」とて、御ふみを奉る。

Q93. 敬意の方向を答えよ。(大鏡・道長)

(地の文) 太政大臣道長、御年六十二にておはしましけるが、いみじく盛りに栄えたまひけり。

Q94. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・夕顔)

(会話文)「かの白く咲けるをなむ、夕顔と申し侍る」と申す。

Q95. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・夕顔)

(地の文・心内文)「心あてにそれかとぞ見る…」とのみ申したりければ、…

Q96. 敬意の方向を答えよ。(徒然草・第五十二段)

(地の文) 仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拜まざりければ…ただひとり、徒歩より詣でけり。

Q97. 敬意の方向を答えよ。(更級日記)

(地の文・自伝) あづま路の道のはてよりも、なほ奥つかたに生ひ出でたる人、いかばかりかは怪しかりけむ…

Q98. 敬意の方向を答えよ。(平家物語・敦盛最期)

(会話文)「あつらひ奉らむ」と申しければ…

Q99. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺)

(地の文) 前の世にも、御契りや深かりけむ、世になく清らなる玉の男御子さへ生まれたまひぬ。

採点振り返り

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30

- 応用 (Q51~Q80) : /30
 - 入試レベル (Q81~Q100) : /20
 - 合計 : /100
-

あしがき

敬意の方向の核心 : - **地の文** → 敬意の発信者は作者 - **会話文** → 敬意の発信者は話し手 - **心内文** → 敬意の発信者は思っている人物 - **手紙文** → 敬意の発信者は書き手 - **尊敬** → 動作主へ - **謙讓** → 動作の受け手へ - **丁寧** → 聞き手・読み手へ

源氏物語・枕草子・大鏡など、敬語の連続が難関大頻出。「誰が」「誰に」を構造的に分解する力が必要。

著作権 : 個別指導塾フィット / 中本裕太